

藤井 七冠に王手



感想戦で第4局を振り返る藤井聰太竜王（右）と渡辺明名人＝22日、福岡県飯塚市の麻生大浦荘、相場郁朗撮影

福岡県飯塚市の麻生大浦荘で21日朝から指されていた第81期将棋名人戦七番勝負第4局（朝日新聞社、毎日新聞社主催、大和証券グループ協賛、九州電力、QTNnet協力）は22日午後4時45分、先手番の挑戦者、藤井聰太竜王（20）＝王位・叢王・棋王・王将・棋聖と合わせ六冠王が渡辺明と名人（39）に69手で勝利。シリーズ成績を3勝1敗

どし、初の名人位に、あと1勝と迫った。第5局は5月31日と6月1日に長野県高山村の「綠霞山宿・藤井荘」で。

本期名人戦を藤井竜王が制すれば、谷川浩司士七世名人(61)が1983年6月に達成した名人獲得の最年少記録(21歳2カ月)を更新し、羽生善治九段(52)以来、2人目の七冠達成となる。

本期名人戦は定跡型で

名人が攻め、藤井竜王が丁寧に受ける展開に。名人は48手目△8三同飛で昼食休憩をまたいで1時間54分の大長考をしたが、「名人の攻めが細く、形勢も厳しい」と検討陣。

2日目に午後5時から30分間の休憩があるが、直前に渡辺名人が投了。

副立会人の豊川孝弘七段(56)は「ギリギリの攻めをつないで勝負という渡

勝ちが見通せるところは
なかつた。▲7四歩(61)
手目)と伸ばした後、
6六角と打ち、攻めを受け止められそうな形になつた。第5局もすぐにある。スコアのことは意識せずに、良い状態で臨めれば。
渡辺名人の話 1日目

将棋名人戦七番勝負

第4局 2日目

9	8	7	6	5	4	3	2	1
香	桂	金	桂	香				
銀	玉	金						
歩	歩	歩	銀	飛				
星		桂	歩	歩				
歩	歩	歩	角					
			歩					
			歩					
			歩					

(1目目指し図: 8八歩まで)

(終了図・ 7五角打まで)

（2日目の指し手）先手・藤井竜王 7七桂（封じ手）手目）△同桂成▲同銀△6五桂
▲8八銀△8六角▲7八玉△5三角▲8三歩△同飛▲8四歩△8七歩▲同玉△8六歩△7八玉△8二飛▲9五歩△7五歩△同角△同角△同歩△4二玉△7四歩△5三角▲6六角△4五歩△3七銀△2六角▲同銀△2八飛△7五角打（終了図）まで、藤井竜王の勝ち

はなく力戦調の将棋が続く。本局も、渡辺名人が「雁木」^{がんぎ}を選び、力戦に。1日目午後、渡辺名人は攻勢を強めた。

井竜王の受けは盤石でした」と話した。